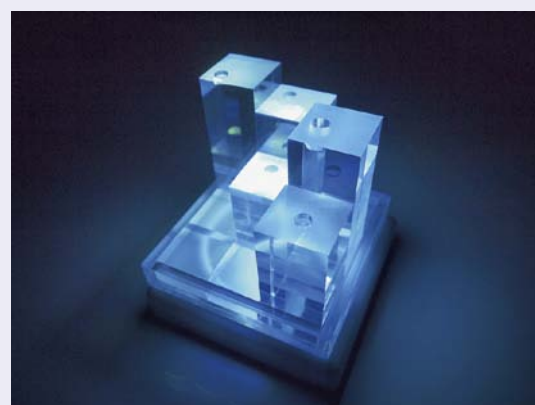




「インテリアブロック “Constellation”」
 情報デザイン学科 第5期生（平成24年3月卒業）
 坂本 駿（広島市立広島工業高校出身）制作

真上から見ると星座の位置を示し、横から見ると太陽系との距離を可視化したインテリアブロック。ブロックの高さは太陽系に一番近い星（10～99光年）を75mm、一番遠い星（100光年以上）を20mmにし、星の位置は上面に穴を掘ることで表現。さらにLEDでライトアップすることで星の光を強く印象づけます。



広島国際学院
 創立85年

特集 就職サポート	2・3
ものづくりの知見、次世代へ	工学部 4
日本で世界で生きる学び	
情報デザイン学部	5
自由な発想で社会に貢献	現代社会学部 6
クルマのよりよい未来へ加速	短期大学部 7
高校から発信	8・9
第24回定期演奏会を終えて	10
第24回学外展「revolution」	10
教員の学位取得	11
「電大」母校に凱旋！	12
今後の主な行事予定	12

広 報

第89号

平成24年9月1日発行

就職サポート

「合同企業説明会 & 面接会@広島」本大学で開催

—中国地区の人材獲得へ、在阪企業中心に参加—

就職課にかかった一本の電話

平成24年4月のある日、就職課へ一本の問い合わせの電話がかかりました。その内容は、合同企業説明会の会場を広島市周辺で探しているとのことでした。その問い合わせに本大学の立地状況、施設の概要を伝えたところ実施会場として検討がなされました。そして、この電話がきっかけとなり、大阪府緊急雇用創出基金事業「合同企業説明会&面接会@広島」が本大学で開催される運びになりました。その後、この事業を受託された(財)大阪労働協会の担当者の方と綿密な打ち合わせが始まりました。会場の企業ブースの配置計画・電源の配線計画・受付の配置計画等が、会場となる本大学学生会館3階の平面図を基に再三に渡り電話・FAX・メールで行なわれました。



会場を訪れた学生たち



大阪を中心とする企業が集った説明会・面接会

中四国の各大学に参加呼びかけ、開催準備着々

この「合同企業説明会&面接会@広島」は、中国地区の就職希望大学生・既卒者が対象となっており、本大学の学生だけでなく全国私立大学就職指導研究会へ加盟している中国・四国の大学の学生にも広報が行なわれました。

さらに、(財)大阪労働協会が鋭意努力され、参加企業数も在阪企業を中心に20社に達しました。参加企業は、製造業・情報技術(IT)・小売業・外食産業と多岐に渡り、本大学の全学部に対応している構成となりました。

そして、開催当日の平成24年6月26日を迎えました。この日は、午前9時から(財)大阪労働協会等の運営スタッフが会場入りされ、準備が精力的に行なわれました。

こうして、会場の設営に始まり、入り口の案内表示、駐車場の案内・会場への案内係の配置を終え、開始時間の午後1時には、準備万端で学生を迎えました。

真剣な参加学生、今後につながる手応え

開始されてからは、各企業のブースで企業の方の丁寧な説明を学生が真剣な眼差しで拝聴する姿が多く見られました。当日は天候に恵まれ、暑さを感じながらも学生はリクルートスーツに身に包み、事前に企業研究を終えた企業の説明をノートに取りながら熱心に説明を聞かせていただいた後に、質問をする積極的な場面も見られました。さらに、参加学生の中に留学生の姿も見受けられ、日本の学生と伍しても積極的な姿勢が見られました。残念ながら参加学生は約40名で、全体としては活気に欠けた感じは否めませんでした。

ただし、未内定(求職中)の学生に企業との出会いを提供し、この出会いを契機に就職活動が今以上に活発になる兆しも見られました。それは、説明を受けた後に退場する際、何人かの学生が後日に企業訪問等させていただきよう申込を行ったことを話してくれたからです。

学生が様々な特徴を備えた多くの企業と出会える機会は貴重であり、今後も規模に拘らず学内で開催することが必要だと再認識しました。

そして一人でも多くの学生が卒業までに内定を得られるよう、改めて心から願いました。



熱意ある学生に担当者の説明も力がこもる

就職への取り組み

改善重ね、時代に即応した支援 — 大学 —

本大学の就職支援は就職委員会のもと教員と就職課で連携して行われており、その歴史は長く、幾多の変遷を経て今日の取り組みとなりました。

近年の改善例には、平成15年度から始めた「総合的就職支援」と授業科目「キャリアデザイン」の開講および平成16年度から始めた「キャリアデベロップメントプログラム」が挙げられます。

「総合的就職支援」は1年生入学直後からの次の項目を毎年改善、実施しています。

1年生 キャンパスライフガイダンス・自己分析検査
教育懇談会

2年生 就職ガイダンス・教育懇談会

3年生 就職ガイダンス(5回シリーズ)・適性適職検査・SPI2対策講座
新聞の読み方講座・SPI2模試受験・就職情報ナビ登録会・ビジネスマナー講座
就職保護者懇談会・就職試験対策講座・個別面談・学内合同企業セミナー

4年生 就職ガイダンス・個別面談・単独企業説明会

「キャリアデザイン」は現在、総合教育センター科目として開講されており、社会人基礎力を養成することを中心としています。

また、平成22・23年度はキャリアアカウンセラーを週2日配置。平成22年度からはハローワークから週1日ジョブサポーターの派遣を受け入れています。

その他に、平成16年度から採用に直結する求人開拓と学生支援のために就職相談員を配置しています。

このように本大学は、時代の変化に常に対応して学生への現実的な就職支援を行っています。



就職ガイダンス

入学時からきめ細かくサポート — 短大 —

短大は2年間と修業期間が短く、また入学翌年の春休み(2月～3月)に主だった自動車整備会社が採用試験をします。従って就職支援は1年生の入学時から進めています。

短大の特徴は、3つの大きな柱で学生をサポートしています。

1つ目に、教員による就職支援授業を前期・後期に分けて実施しています。前期には、主な就職先の仕事や役割(整備士の役割と必要性、クルマ社会にとって自動車整備工場とは…)を、後期になると就職に必要な履歴書の書き方や小論文を授業で、希望企業を想定した面接模擬訓練なども行っています。

2つ目は学生自らのアクションです。学生は1年生の夏休みを利用して会社訪問を始め、自分の目標や目的にあった企業選びに取りかかります。秋からの訪問で目標や目的に合った企業を絞り込み、2月の学内の会社説明会では、それぞれの希望に合った企業数社に採用試験日や試験内容・重要視するポイントなどの説明を聞くことにしています。

3つ目に、企業情報や進路の悩みなど、様々な相談を受け付けるシステムを整えています。学生は就職課や担任教員など、社会経験の豊富な教職員に相談しながら自分に合った進路を見出すことができます。

その他、学生などの要望に応えた授業として、社会で活躍しているOBによる講話等開催しています。先輩たちから助言や社会に踏み出す為の心構えを伺い、またプロによる実践を交えたマナー教育も行って学生の満足の行くサポートをしています。



学内会社説明会

ものづくりの知見、次世代へ

工学部

「環境の日ひろしま」に出展

6月3日、例年のように「環境の日」広島大会が県庁前広場で開催され、本大学からも出展しました。多くの企業等が環境関係の技術や製品を出展し、市民の方々が多数見学に訪れました。本年度はバイオ・リサイクル専攻の学生組織である「Dash Project」のメンバーが、学生部や総務部と連携しながら準備にあたりました。当日は来訪された市民の方々にパンフレットやグッズを配付するとともに、展示パネルの説明を行いました。学生にとっては出展企業の取り組みを把握すると同時に、社会の皆さんと接触する良い機会となりました。また、自動車短期大学部からは学生たちの製作している電気自動車が出品されました。製作中とあって構造が見えやすく、なかなかの人気でした。大会終了間際に、環境の日の人気キャラクター「環境エコレンジャー」の皆さんと記念撮影を行いました。



環境エコレンジャーと記念の1枚

広島市消防局の火災調査員が本大学で研修



携帯懐炉や乾燥剤も出火原因に？化学火災研修

広島市消防局は、複雑化する近年の火災原因を解明するため、平成8年度からアドバイザースタッフ制度を導入しています。本大学の教員は、そのアドバイザースタッフに任命されており、火災原因の調査と原因究明に協力しています。6月22日にはその一環として、広島消防局火災調査課程の研修会が本大学で行われ、火災調査員の約20名が来校されました。午前の化学火災に関する研修では竹野健次准教授が、午後の電気火災では歌谷昌弘准教授が

講師を務めました。通常に出回っている日用品も取り扱いを間違えると出火の恐れがあることを、実演を交えて講義しました。



手製の実験装置で電気火災の仕組みを解説

オープンキャンパス開催



コンピュータ(CAD/CAM)によるものづくりに挑戦

オープンキャンパスが6月24日、7月29日および8月25日に行われ、高校生や保護者など多くの来場者でにぎわいました。午前10時の学長挨拶から全体会が始まり、その後、各学部に分かれて施設見学や学習内容の体験授業を行いました。工学部では来年度より開設される『生産工学科』と『食農バイオ・リサイクル学科』の新2学科を紹介。『生産工学科』では「3次元CAD」「音響実験」「ロボット実演」などが行われ、『食農バイオ・リサイクル学科』では「発酵食品」「遺伝子実験」「資源のリサイクル」などの展示と体験授業を行いました。

その他学生企画では、吹奏楽部による演奏や表千家流茶道部によるお茶席、名水カキ氷、ボン菓子など、工夫を凝らした様々な企画が催されました。

情報デザイン学部 ▶ 日本で世界で生きる学び

第8回“ちいさな”平和コンテスト — 展示期間：7月26日から8月6日まで —

「“ちいさな”平和コンテスト」が今年も開催され、本大学の広島駅地下展示スペースには、平和を願う気持ち全ての作品114点が展示されました。

8回目となる今年は、高校生からの投稿作品が多くありました。また、20代、30代の若いお母さんからは、赤ちゃんや元気な子どもの写真投稿が多く、60代や70代からは、お孫さんとの関わりの中で生まれた作品の投稿がありました。幅広い年齢層からそれぞれの視点で身近な平和への思いを投稿していただきました。

展示の準備は、今年も学生実行委員会のメンバーと4年生の有志が参加し、大学のコンピュータMac準備室で毎晩遅くまでがんばりました。また、展示搬入当日も多くの学生が参加し、暑い中集中して作業を行いました。

ウィンドウの下部には審査のための投票シールが貼られ、展示作品をご覧いただいた一般市民の方々に参加していただきました。関わってくださった全ての方々にとって、平和を考える一助となればとスタッフ一同、願っています。



展示作品を観る一般市民

青年海外協力隊員 帰国報告会 — 増村さん マーシャル諸島派遣 —

本大学の卒業生である増村雅司さん(情報工学科平成16年3月卒)がこの度、JICAの青年協力隊員として2年間の任務(2010年4月-2012年3月)を終え帰国し、「異文化体験Ⅰ」の授業の中で報告会を行いました。

派遣先のマーシャル諸島では、首都マジュロを中心とした現地の中学校に勤務し、理数科教師としての活動を行いました。多くの生徒への授業を通じて、理数科科目の学力を向上させただけでなく、現地の教師に対しても教育方法改善の多大な影響をもたらしました。

報告会の中では、発展途上国への一つの海外旅行をしたことが海外協力隊応募のきっかけになったことや、大学の先生方からの多くの協力が決断の後押しをしたことなどが紹介されました。

また、海外に出ることで自分自身や世界における日本の立場などの状況を把握することができるため、在学生の皆さんへは「積極的に海外に出て欲しい!」との力強いメッセージをいただきました。



島での生活について説明する増村さん

卒業生 小林佐和子さんが人間力大賞(復興創造特別賞)受賞

本大学情報デザイン学部を今年3月に卒業した小林佐和子さんが7月22日、人間力大賞2012の復興創造特別賞を受賞しました。人間力大賞は公益社団法人日本青年会議所が主催する賞で、さまざまな分野で積極的に活動・活躍する若者に贈られる賞です。「青年版国民栄誉賞」として展開されており、1987年から続いています。

小林さんは4年生だった昨年8-11月の間、東日本大震災の被災地岩手県で三陸ボランティアダイバーズの一員として、海中瓦礫撤去ボランティア活動を行いました。危険が伴う場所での積極的な活動が評価されたものと思います。小林さんは「まだまだ継続して活動していくことが大事だと思うので、これからも自分のできることを継続して頑張っていきたいと思います」と話しました。

小林さんは本大学に入学後水泳部に入部し、その活動の一環としてスクーバダイビングライセンスを取得しました。さらに「異文化体験Ⅱ」の授業において、海外のダイナミックな海でのダイビングを初体験し、その魅力に取り憑かれ、その後国内外での数々のダイビング経験を重ね潜水技術を高めました。また、授業での海外ダイビングツアーに毎年参加し、フィリピンやマレーシアなどでの電気のない生活体験や発展途上国の現状を垣間見るに当たり、今の自分にできることを模索し続けてきたようです。

このような大学生活での様々な出会いが、今回のような客観的な評価に値する勇氣ある行動を支えている原点になっているものと思われます。今後のますますの活躍を期待いたします。



被災地での活動に荣誉、復興創造特別賞を受賞した小林さん(中央)

自由な発想で社会に貢献

現代社会学部

情報デザインと現代社会の2学部がコラボ、商店街活性化に一役!!

—シティカレッジ2012(前期)を開講—



商店街の現状と課題を歩いて探る

シティカレッジは県内の大学・短大、教育ネットワーク中国と広島市、(財)広島市未来都市創造財団が連携し公開講座を提供しています。今年度前期の広島国際学院大学は情報デザイン学部の大塚厚二教授、伏見清香教授、現代社会学部の池本良教准教授、谷口重徳准教授の担当により、広島市中区袋町にある「うらぶくろ商店街」の活性化をテーマとして「地域活性化と協働・共生～地域を考えるワークショップ～」を開講しました。

講座の内容は「【第1回】地域を知り学ぶ(6月16日)」、「【第2回】地域を歩き見る(23日)」、「【第3回】地域の現状を共有する(30日)」、「【第4回】地域の現状と課題を考える(7月7日)」、「【第5回】地域の未来を考える(14日)」というものです。講座は、通常の講義形式とは異なり、実際に参加者の方々に「体験」を通じて理解を深めていただくワークショップ形式です。商店街活性化の理論的視点や各地の事例の学習だけでなく、参加者は実際

に「うらぶくろ商店街」を丹念に歩き、街並みの路上観察・撮影を行いながら、改めて商店街の現状と課題を再認識されました。こうして得た知見に基づき、参加者同士が「うらぶくろ商店街」の活性化のあり方について議論を重ねたのですが、以前から袋町界隈に親しみを持っておられる方も多く、のべ68名の参加者によって、毎回白熱した議論が交わされました。

4名の担当教員もほぼ毎回全員が参加し、池本・谷口准教授は地域社会活性化やフィールドワークの技法について、大塚教授はウェブサイトを通じた「うらぶくろ商店街」の情報発信について、伏見教授は空間デザインの観点から商店街や都心部の再生について提言を行うなど、それぞれの専門分野が活きるコラボレーションとなりました。

講座を通じ、うらぶくろ商店街振興組合の松本峰人理事長をはじめ、振興組合の皆様毎回ゲスト参加していただき、貴重なご意見をいただきました。この場をお借りしてお礼申し上げます。



商店街活性化のアイデアを出し合う参加者

プレゼミで漂着ゴミ調査 —呉ポートピア近くの海岸にて—



収集したゴミを分類、記入

7月15日、前日の土砂降りの雨から一転、かんかん照りの晴天に恵まれました。この課外授業は、6月に行われた学外講師による「漂着ゴミに関する講義」の内容を実施体験しようという趣旨で行われました。

呉ポートピア駅に集合。徒歩で近くの海岸へ。日頃の教室での授業と異なり、皆おしゃべりしながら、生き生きとした表情で、課外授業の解放感を味わっていました。現場の海岸に着くと、皆一様に「あれ、ゴミが少ない!」事前に下見をした時には海岸は漂着ゴミで覆われていたのに?実は1週間前に近くの小学生の課外授業で、「ゴミ拾い」が行われていたのです。

海岸でチュータ別のグループに分かれ、海岸を等分し、その範囲で行動開始。各自、呉市役所から提供されたボランティア用のビニール袋を手し、ゴミの収集を始めました。その後、収集したゴミを分類し、調査票に記入。課外活動においても学生の行動は様々です。一生懸命ゴミを拾っている人、なんとなく人の後ろをついて歩く人。集計が終わった後、分類ごとにビニール袋に収集し、皆で近くのゴミ収集場まで運び、一連の課外授業を無事に終了しました。

7月18日のプレゼミの授業で、各個人の調査票を基に、グループごとに収集したゴミの分類結果を模造紙にまとめて発表しました。最後に田中先生から、今回の課外授業にあたり多くの人々の協力を得たことが報告され、学生たちも地元の人々に少しは役立てたことを実感できたと思います。初めての課外授業でしたが、日頃はなかなか話せない人とも打ち解けて話げできました。また、今まで一度も話したことのない人とも協働作業を通じて連帯感を得ることができた貴重な体験だったと思います。野外活動での学生が見せた汗にまみれた笑顔が印象的でした。



分類結果をまとめる学生

全国の自動車短期大学が広島へ

8月7日に、全国自動車短期大学協会の第44回研究発表会が本短大を当番校としてホテル広島ガーデンパレスで開催されました。

発表会前日の6日は上瀬野キャンパスで設備見学会が行われ、主だった実習教場と関連設備を見ていただきました。現場では見学者と担当教員との間で熱心なやりとりが行われていました。

7日は中国運輸局や整備振興会からの来賓の方々をお迎えし、午前中に5件、午後には3件の研究成果の発表が行われました。今年は電気自動車関連、教育システム関連、教育用車両の試作関連と大きく3つのテーマに分かれ、発表者は日頃の教育研究で工夫してきた内容について、丁寧に分かりやすく発表しておられました。日頃抱えている共通の問題に関わるが多いため、各発表に対して会場からは多くの質問が出されました。また、本大学工学部の遠藤敏郎教授が「自動車リサイクル現場の現状と課題」という演題で記念講演を行い、来賓の方々も含め皆さん熱心に耳を傾けておられました。

研究発表会終了後は和やかな雰囲気の中で懇親会に移り、余興として神楽が催されました。演目は「八岐大蛇」で、スサノオと大蛇の立ち回りなど多彩な動きをどなたも興味深げに観賞しておられました。研究発表会の準備で教職員一同多忙を極めました。全国から集まった自動車短大協会会員校の皆様には大いに満足していただけたと思います。



全自短研究発表会

水無月祭を開催

6月2日に学友会主催の水無月祭が上瀬野キャンパス体育館で行われました。

奥田勉学長は開催の挨拶の中で、ソフトバレー大会後に行われるバーベキューの由来について説明しました。元はカリブ海の小さな村で行われていたことをスペイン語でバーベキューと言ったことが始まりだそうです。学長からは昨年度も水無月祭の由来について話があり、学生にとって雑学の勉強にもなりました。



笑顔も弾むバーベキュー大会

林幸男学友会長(三次青陵高校出身)から「楽しく愉快地に怪我の無いように」との開会宣言に続いて、教職員チームを含んだ6チームによる熱戦が繰り広げられました。

スポーツで汗を流した後はみんなでコンロを囲み、バーベキューを楽しみました。焼肉、焼きそば、おむすびなど堪能し、お腹も心も大満足となりました。

「会社訪問に必要な基本マナー」講座を開催

夏休みから始まる1年生の会社訪問を控え、訪問先へのアプローチの仕方を学びました。「電話のかけ方と言葉遣い」「訪問先での挨拶や心得」「訪問先での好印象を得るためのチェックポイント」などプロの外部講師から教えていただきました。日頃学んだことのない実践を交えた講師の話を目で聞き、目で見ながら身体で表現するなど、短い時間でしたが学生にとっては有意義な時間となりました。

講師の長谷川あかねさんは以前、自動車販売会社で新卒者の面接や採用に携わっておられました。学生も厳しい社会の現実に一瞬触れたことで真剣みが人一倍増したのでは、と思っています。

なお、会社訪問の目的・見るべきところ・整備士の仕事などは既に支援授業で学んでいます。訪問準備はほぼ完了しましたので、会社訪問の受付開始からは爽やかにスタートダッシュを掛けたいものです。



実践的なマナー講座に学生も真剣そのもの

高校 から発信

体育祭

6月9日、体育祭を開催しました。梅雨入りにもかかわらず晴天が続く毎日でしたが、体育祭前日は突然の雨で実施が危ぶまれる状況でした。それでも当日は早朝より多くの生徒がグラウンドの整備にあたり、予定通り体育祭を実施することができました。保護者席はぬかるみの状態でしたが、開始時刻には用意した500席はほぼ埋め尽くされ、本高校の体育祭に対する評価の高さを改めて感じました。

入場行進をはじめ集団演技はどれをとっても全員が力一杯取り組み、自らの感動ばかりか見る者にも感動を与えてくれました。競技のクライマックスはクラス対抗リレーでした。高校3年生にもなるとさすがは選抜された選手だけに、短距離競技の醍醐味を味わうことができました。太田校長の「感動をありがとう」という言葉どおり、一つ一つの競技が思い出に残るシーンを演出してくれました。来年も多くの方々のご来校を心よりお待ちしております。



クラス対抗リレーで体育祭は最高潮に

集団合宿

心をつなぐことによって得られる感動

本高校は4月に426名の新入生を迎えました。そして5月中旬、新入生集団合宿が国立江田島青少年交流の家で行われました。総合学科は5月18～20日、普通科は5月20～22日に分けて実施。生徒たちは合宿の目標である「社会的ルールを守る」「基本的な生活習慣を確立する」「好ましい人間関係を構築する力を身につける」「感動を得る努力をする」「クラスを越えた仲間作りに努める」の5点を達成すべく、カッター訓練や体育祭練習に参加しました。また、「キャンプファイヤー」「キャンドルの集い」「オリエンテーリング」など、科ごとのオリジナル行事も多数催され、生徒たちの心が一つになる場面がたくさん生まれました。



カッター訓練に取り組む生徒

それらの取り組みを行うことが目標達成に対してどれだけ貢献したのかは、現段階では分かりません。しかし、一つ一つのイベントで生徒たちが見せる笑顔や、青少年交流の家の方々の話を聞くときの真剣な眼差し、そしてカッター研修中や体育祭練習中の真剣な表情を見る限りでは、上記の目標達成に近づくことができたと確信しています。

生徒会入会式

本高校生徒会は、毎年4月に「生徒会入会式」を開催しています。今年で3回目となりますが、毎回生徒会執行部を中心に趣向を凝らした入会式に仕上げ、新入生の皆さんに本高校での学校生活のあり方について楽しく学んでもらっています。主な企画として、「服装間違い探しゲーム」や「本校に関する〇×ゲームクイズ」を行いました。どの企画も教員中心ではなく、生徒会執行部が新入生に学校生活のルールを教えるという形をとり、生徒間での意識向上を図りました。大盛況の中終えることができた入会式ですが、今後も進化させていきたいと思っています。



ユーモラスな「服装間違い探しゲーム」は新入生に好評

総合学科完成年度を迎えて

— 「仕事とは？」学ぶ1年生、年度末に「将来の夢」発表 —

平成22年度に発足した総合学科も今年で完成年度となり、来年3月には1期生が旅立ちます。総合学科の特色は2年次からの系列選択により自分の将来像に合った授業を受けられることや、簿記・情報技術・ハンゲル・中国語など多種多様な検定資格にチャレンジできることなど様々ですが、その基盤となるのが1年次に行われる『産業社会と人間』という授業です。

『産業社会と人間』という授業は、学習指導要領によると「産業社会における自己の在り方生き方について考えさせ、社会に積極的に寄与し、生涯にわたって学習に取り組む意欲や態度を養うとともに、生徒の主体的な各教科・科目の選択に資する」として「勤労観、職業観の育成」「社会の変化についての考察」「自己の将来の生き方や進路についての考察」「各教科・科目の履修計画の作成」などについて指導するよう明記されていますが、具体的な授業内容については各学校に委ねられています。

本学科は「『自分』をよく知り、『仕事とは？働くとは？』を学び、『どのような大人になりたいのか』を語れるようになる」ことを目標にカリキュラムを作成し、授業を展開しています。



会社見学（中国醸造株式会社）

伝統工芸士、自衛隊員の方にお話をいただきました。

3学期はこの授業の集大成とも言えるイベント、「進路目標発表会」が行われます。準備期間を含めると7週にも渡る催しで、総合学科1年生全員が自分の将来の目標や決意を体育館ステージ上で2分間発表します。同級生や教員、そして保護者と総勢200名以上の聴衆を前に、これまで経験したことのない緊張感の中で自らの将来について語るのです。将来の夢・目標が定まっている人は、堂々とした面持ちで声高らかに発表します。まだはっきりと定まっていない人も「現時点で理想とする将来像」や「将来に向けて今できること」など切り口を変えて、工夫を凝らしたオリジナリティのある発表を行います。他校では行われない珍しいイベントということもあり、昨年度は中国新聞やケーブルテレビ局など、複数のメディアで紹介されました。

総合学科1年生は上記を経て2年次の系列を選択し、目標（ゴール）に向かい残り2年間邁進していきます。そのゴールが近づいてきた現3年生。AO入試はすでに始まり、今後就職試験、推薦入試、一般入試と続きます。皆3年間の想いを胸にそれぞれの舞台へと挑みます。



各クラスで班別に自己紹介を行い、自己理解を深める

1学期には「自己理解と他者理解」をテーマに各クラスで取り組み、教育実習生と語らうなどしてコミュニケーション能力を向上させることに力を注いでいます。また、大学など上級学校の説明を聞いたり、実際に訪れたりすることで自分の3年後の姿を意識させています。

夏期休暇直後には体育館にて発表会を行います。今年度は昨年度同様、NIE（教育に新聞を）実践指定校に認定されていることもあり、新聞記事を題材とした発表を行います。また2学期後半には企業訪問を行い、実際に働く現場を見学することで職業観・就労観を育みます。その他、1・2学期を通じて「職業とは何か・職業を選ぶために必要なことは何か」をテーマに進路講演会を3～4回行います。昨年度は獣医、大学教授、



進路目標発表会

第24回定期演奏会を終えて ～高校吹奏楽部～

6月24日に本高校吹奏楽部の第24回定期演奏会が開催されました。今年の演奏会には海田町にある老人福祉施設「エバークリーン」の方々を初めてご招待し、高校生の元気な演奏を聴いていただきました。短い時間でしたが、喜んでくださり、部員一同逆に元気と勇気をいただきました。

第1部はクラシックで、2012年度コンクール課題曲の行進曲『希望の空』やバレエ音楽『白鳥の湖』、そしてスパーク作曲の『陽はまた昇る』を演奏しました。『陽は…』は東日本大震災復興のために作曲された作品で、静かで美しいメロディーが会場中



高校生による元気な演奏



美しいバレエも客席を魅了

を包みました。また、コーブランド作曲のバレエ音楽『アパラチアの春』は今年度のコンクール自由曲で、力が入った演奏ができました。

第2部は「シネマ・ミュージック・コレクション」と題し、特に古い映画音楽を中心に構成し、誰もが楽しめるステージを目指しました。中でも『ロミオとジュリエット』では、2年の平野清楓さんがバレエを披露し、拍手喝采を浴びました。『シャル・ウィ・ダンス?』では国際名物タップダンスを踊り、家庭科の吉野麻衣教諭による見事な衣装とともに好評を博しました。最後の『第三の男』はノリの良いラテン音楽に客席も盛り上がりました。最後までお客様の温かい拍手が心に染み渡る良い演奏会でした。

第24回学外展 *revolution*

第45期学友会文化局 局長 瀧谷 勇司(呉工業高校出身)

7月16日に第24回学外展「revolution」が開催されました。学外展とは文化局に在籍する13のサークルが合同で開催する展示会のことです。全ての文化局に属するサークルが共同で行うイベントは学外展のみとなります。

今回の学外展では会場をいくつかに分け、展示会や茶会などを同時に開催いたしました。展示会では写真部・電子計算機研修会・美術研究同好会・電気試験受験クラブ・ボランティア部・留学生会・薬物乱用防止活動部が合同



「余の辞書に不可能はない」
2,000枚の写真からナポレオンが現代に甦る?

で展示を行いました。中でも写真部による巨大モザイクアートには目を見張るものがありました。2,000枚を超える写真で作られたナポレオンの絵画は、テーマである「revolution」を想起させる作品でした。また、今年初めての参加となる電気試験受験クラブは、会場に



電気試験受験クラブによるイルミネーション

イルミネーションを設置しました。水の流れをイメージしたその作品はとても幻想的でした。また、特設会場を設けTOYBOXによる映画作品の上映会、競技麻雀部による麻雀大会および麻雀講座、表千家流茶道部による茶会を実施しました。この機会に麻雀や茶道に興味を持っていただけると嬉しく思います。

今年度は吹奏楽部やMusic Planning Agencyなど、音楽サークルの公演にスタジオを借用しました。TOYBOXによる映画上映・吹奏楽部による演奏・Music Planning Agencyによるバンド演奏を行いました。また、このスタジオでの設営・音響運営では放送通信研究会(VOD)に多大なるご協力をいただきました。

来年度は今年度の学外展から得たことを糧に、文化局・サークル共により良い学外展を開催できることを願っています。

教員の学位取得



氏名 鵜根 弘行 (情報デザイン学部 准教授)
学位名 博士(工学)
学位授与大学 千葉大学
論文題目 強化学習を用いた分散型適応
QoSルーティングアルゴリズムに関する研究

現在、膨大なデータが流れるインターネットでは、トラフィックの集中に起因する輻輳の回避、ならびに実時間性を要求するサービスのために最大遅延や最小通信帯域を保証するなど、通信品質(Quality of Service: QoS)の確保が必要とされている。そこで、本論文では強化学習の手法を取り入れた、QoSルーティング問題に有効な種々のルーティングアルゴリズムを提案する。

まず、輻輳回避を実現する手法として、Ant Colony Optimizationと学習オートマトンを利用したルーティングアルゴリズムDARLAを提案する。DARLAでは、探索した経路での転送時間の評価結果を学習に用いることで、複数経路の発見と負荷分散が実現できる。また、学習オートマトンの特性から配送経路中のループを検出するための尺度を導出する。この尺度により、ループから脱出できず宛先に到達不能となるデータの発生が抑制できる。

つぎに、複数の経路メトリックに関するQoS制約条件を満たす経路探索を行う、Q学習を用いたルーティングアルゴリズムQQRAを提案する。QQRAでは、各メトリックとQoS要求から導出した報酬を元にQ学習により配送経路を探索することで、QoS制約を満たす経路の発見と利用が行える。

さらに、複数のQoS制約を課された経路探索を行うために、DARLAに対する拡張を提案する。拡張されたDARLAでは、QoS要求を経路評価に組み込むことで、DARLAの特徴である複数経路の発見と負荷分散、配送ループの回避に加え、QoS要求を満たす経路の発見と利用が可能になる。



氏名 趙 領逸 (情報デザイン学部 講師)
学位名 博士(感性科学)
学位授与大学 筑波大学
論文題目 ビジュアルコミュニケーション
におけるモーショングラ
フィックスの構成要素と経験
による感性評価の特徴

嗜好、親近感、幸せ感など人によって異なる主観的評価の重要性は、デザイン研究分野の造形的な要素に限られていたデザイン 이슈を人間中心へ移し、言葉だけでは説明できない非言語情報の解明まで研究の領域を広げた。そのため人間の認識・選択・決定行為の説明に総合的な研究方法の必要性が高まりつつあるが、科学的手法で検証された応用研究が十分とは言えない現状である。そこで本研究は、デザインにおける直観的で暗黙的な知識の差に着目し、デザイナーとユーザー間で生じうる経験と感性評価の特徴を検証することで、人間の決定行為と関連しているデザインの新しい研究方法を提案している。

本論文では、直観的で暗黙的な知識の差による感性評価の違いを明確に検証するため、ビジュアルコミュニケーションの中でもより直感的で暗黙的な判断と関係しているモーショングラフィックスに注目した。第1段階の研究でモーショングラフィックスの構成要素と評価の関連性を明らかにした上に、第2段階の研究でモーショングラフィックスの構成要素と評価の被験者要因依存性の有無を検証することで仮説の妥当性を得た。第3段階の研究でモーショングラフィックスを評価する被験者要因としてデザイン教育とデザイン業務の影響の違いを明らかにすることで経験と感性評価の特徴をまとめた。

受け手の暗黙的で直観的な理解に関する本研究の結果は、デザイン研究における新しい研究方法の提案及び、ビジュアルコミュニケーションにおけるデザイナーとユーザー間の意図的理解の共通化支援へ有効に活用できると考えられる。

「電大」母校に凱旋!

— ユニコーンの本大学OB3名がバンドを結成、里帰りライブも —

学生部次長 朝尾 芳照(本大学卒)

この話は平成22年秋、本大学の音楽サークル「MPA (Music Planning Agency)」のOB会に遡ります。私はMPAのOBではありませんが、呼びが掛かりOB会に参加しています。このOB会では、各自の近況から昔話に花が咲きます。その談笑の中でバンド「ユニコーン」メンバーであるOBの話も出ましたが、話題の一つとして盛り上がったばかりでした。



母校を訪問した「電大」メンバー(左から川西さん、手島さん、EBIさん)

翌秋にもMPAのOB会が開かれ、何時ものとお楽しみ時間を過ごしているうち、また「ユニコーン」メンバーのOBが話題に上りました。学生が高城祭(大学祭)に出演して欲しいと話している旨を伝えると、メンバーと親交が深いOBの田中信彦氏が話を取り次いでくださることになりました。

平成23年後半から調整を始めましたが、翌年は「ユニコーン」として活動するか不透明な状態であり、出演は困難な状況で平成24年を迎えました。

新年早々に「ユニコーン」のメンバーで本大学出身の川西幸一、手島いさむ、EBIの三氏が音楽ユニットを結成し、活動するニュースがインターネットで公表されました。その名も「電大」。3人の母校である広島電機大学(現広島国際学院大学)の略称をそのままグループ名としています。「電大」結成早々にマネージャーの方と連絡を取り始め、平成24年度の高城祭への出演交渉が始まりました。

こうした中、平成24年4月中旬にNHK広島放送局のディレクターの方より「電大」の母校訪問およびフラワーフェスティバル出演の企画と撮影・放映の申し出がありました。これを受け、本大学の学長をはじめ関係者と調整し、実現の運びとなりました。電話・Eメールでの調整、現地での詳細な打ち合わせが何度となく行なわれました。

母校訪問はフラワーフェスティバル出演の前日、平成24年5月2日に行われました。小雨に煙る母校キャンパスを久方ぶりで訪れたメンバー3名は、図書館で学生有志による歓迎セレモニーに遭遇。卒業アルバムに写る当時の姿と学内の状況を思い起こし、大学祭のパンフレットで当時のステージ出演者の思い出話に花が咲きました。

また、7号館1階の電気工学実験室を訪れた折は、「昔使った実験器具がまだ残っている」などとひとしきり当時を懐かしんでいました。その後、プロモーションビデオの撮影も行なわれました。

特に活況であったのはMPAの後輩が出迎えた部室訪問でした。メンバーが在籍していた当時と変わっていない雰囲気と現在の学生が考えた装飾に感じるところ大であったと横から拝見して思いました。

また、メンバーが在籍していた当時から引き継がれてきたギターアンプが壊れていることを後輩から聞き、メンバーの一人が寄贈を約束。後日、コンサートで数回使用した新品同様のギターアンプが届きました。後輩らが喜んだことはいうまでもありません。

後輩の期待に応えるため「電大」が今年の高城祭に出演することも決まりました。学生とともに彼らの活躍を心から祈って止みません。



寄贈されたアンプに後輩も大喜び

高城祭に「電大」出演決定!

開催日 10月27日(土): 高城祭前夜祭
会場 本大学中野キャンパス 特設ステージ **無料ライブ!**

★ 今後の主な行事予定 (赤字は公開行事です)	学院	創立記念日(11/1)
	大学・短期大学	後期ガイダンス(大 9/20~21 短1年 9/13 2年 9/14) 授業開始(大 9/24 短 9/18) 保護者懇談会(短 10/20) 高城祭(10/27~28)
		推薦入試(大 11/15 短1期 11/3 2期 12/15 3期 1/19)
		冬季休業(大 12/24~1/7 短 12/25~1/6)
	高等学校	始業式(9/1) 中間考査(1・3年 10/11~16 2年 10/4~9) 修学旅行(2年 10/11~15) 文化祭(11/18) 期末考査(12/6~12) 終業式(12/21)

88号訂正: 11ページ「感謝・感動」・12ページ「学生生徒の活躍」 「大洲中学校」→「大州中学校」

この広報誌及び第三者認証評価結果はホームページでご覧になれます。 <http://office.hkg.ac.jp/>

高校生以上の方に図書館を開放しています。 詳細は図書館までお問い合わせ下さい。TEL082-820-2536